様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 ２４ 日現在

機関番号：８０１０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４７２００８５

研究課題名（和文）画像資料の分析による「義経蝦夷渡伝説」の受容についての研究

研究課題名（英文）Observations Regarding the Images of the Legend of Yoshitsune's Crossing to Ezo

研究代表者
山際　晶子（YAMAGIWA, Shoko）

北海道開拓記念館・学芸部・学芸員

研究者番号：５０５９１８６４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の調査で明らかとなった18件の「義経蝦夷渡伝説図」を一覧に整理した。そのうえで、各図を絵の内容ごとに三つのグループに分類した。すなわち、蝦夷地に渡る義経一行を描いた図、義経一行と蝦夷人の合戦を描いた図、義経と彼に敬意をはらう様子のアイヌを描いた図、の三つである。この三つ目のグループに属する作例は、主に、北海道と関わりの深い作者の手によるもの、北海道の神社に所蔵されるものであり、この図は北海道で独自に発展し、定型化したとみられる。さらに画像の分析から、この図は、義経以外の伝説的な人物を描いた図を参考にして、生み出された可能性が高いことが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：I arranged 18 pictures of “Yoshisune Ezowatari Densetsu”-- the legend that Minamoto no Yoshitsune did not die in Oshu, but rather crossed to Ezo where he reigned as king -- ; including the works discovered by this investigation to a list. Then I classified these works into three groups according to content. The first droup depicts Yoshitsune and his entourage crossing to Ezo by ship. The second group depicts them having engaged in battle with Ezo pople. The third group depicts Ainu people expressing respect to Yoshitsune or his servants. This group includes works created by the person with strong connections to Hokkaido. I clarified that the third patterns were established based on other subjects, and were then used to create numerous variations.

研究分野：日本美術史

キーワード：日本美術史　源義経　武者絵　蝦夷　異界　絵馬　北海道　アイヌ

１．研究開始当初の背景

「義経蝦夷渡伝説」―義経は平泉で死なずに蝦夷地に渡り、その地で王と仰がれ、後に神としてまつられた―という物語は、義経の死にまつわる伝説のうち、最も流布したものとされる。この伝説は元禄―享保期に形成され、東北・北海道の各地に関連する多様なエピソードが伝えられている。菊地勇夫氏は、この伝説が、江戸時代末期に、幕府によるアイヌ民族の同化主義的政策に利用されたと指摘している。また、阿部敏夫氏は、北海道での伝説の伝播を文献や聞き取りにより調査し、北海道内で地域により異なる内容が伝えられていること、とりわけ、義経が悪者になっている物語が伝えられていることに注目し、アイヌ民族による移住者への抵抗や非難の感情を反映したものと推察している。

ところで、北海道内の神社に奉納された絵馬や、江戸で出版された書物の挿絵、錦絵などに、この伝説を描いた図（以下、義経蝦夷渡伝説図と称する）が散見され、これらの画像資料が、伝説の伝播に貢献したことは想像に難くない。にもかかわらず、義経蝦夷渡伝説図の考察は、林昇太郎氏によるいくつかの報告にとどまり、その全貌はいまだ明らかにされていない。

２．研究の目的

本研究は、義経蝦夷渡伝説図の調査と分析を通して、義経蝦夷渡伝説図の全貌を明らかにすることを目的とする。このことはすなわち、この伝説の伝播、とりわけ北海道における受容の様相、くわえて、北海道における近世・近代の絵画制作や受容の有り様、さらには、近世・近代の「日本」の「異域観」を明らかにする糸口になるものである。

３．研究の方法

第一に、義経蝦夷渡伝説図の所在調査を行い、画像資料を集積した。具体的には、北海道内の神社・博物館・資料館などで絵馬その他画像資料の調査・撮影を行い、書物の挿絵・浮世絵などについては、全国を対象に調査し、データを集積した。

第二に、集積した資料の、分析・比較・検討を行った。特に、伝説の受容の際、モティーフや構図にどのような変更が加えられたかを中心に、図像の比較・分析を行い、文献資料による研究成果も踏まえて、「義経蝦夷渡伝説」受容の様相について考察した。

４．研究成果

研究期間全体を通して、18 件の義経蝦夷渡伝説図の所在が明らかとなった。これらを一覧に整理したうえで、各図を絵の内容ごとに三つのグループに分類した。すなわち、一つ目は、船に乗り込んだ義経一行が蝦夷地に渡る場面を描いた図、二つ目は、蝦夷島に渡った義経一行と蝦夷人との合戦の様子を描いた図、三つ目は、義経もしくは義経主従とかれらにひれふす様子のアイヌを描いた図、である。

一つ目のグループの作例には、北尾重政画の『絵本義経記』の挿絵や、歌川芳虎、芳雪、芳貞による錦絵がある。義経の生涯を双六にした芳貞画の《義経一代勲功双六》では、「上がり」のコマがこの図となっている。芳雪画の《源之義経蝦夷征罰之図》では、一行が向かう蝦夷島に蝦夷人の姿があり、《蒙古襲来図絵詞》に描かれた蒙古人を彷彿とさせる姿で描かれている。

二つ目のグループの作例には、歌川国富、貞秀による錦絵がある。国富画の《源義経蝦夷国渡海合戦之図》は、壇ノ浦合戦の八艘飛び伝説を思わせる図である。ここでの「蝦夷人」の服装や容貌もまた、《蒙古襲来

図絵詞》に描かれる蒙古人の兜や面貌の特徴と共通している。

先の二つのグループの作例が主に江戸で出版されたものであるのに対し、三つ目のグループに属する作例は、北海道内の神社に奉納された絵馬や、松浦武四郎などの北海道と関わりの深い作者の手によるものが主である。また、アイヌの描写も、他の二つのグループとは異なり、北海道を中心に国内外に多数現存する、近世・近代にアイヌの姿や風俗を描いた「アイヌ絵」の特徴と一致する。よってこのグループの図は、北海道で独自に発展し、定型化したものと推定できる。

さらに画像の分析から、これらの三つ目のグループに属する作例が、義経以外の伝説的な人物を描いた図を参考にして、生み出された可能性が高いことを明らかにした。すなわち市立函館博物館所蔵《アイヌ風俗絵馬》、上ノ国八幡宮所蔵《義経とアイヌ絵馬》は、歌川国芳《為朝と疱瘡神》をはじめとする、疱瘡除けの願いが込められた為朝図像に呼応し、峰延神社所蔵（幌内神社奉納）《義経蝦夷渡伝説図絵馬》に描かれた義経とアイヌの人々は、『天満宮実伝図会』などに見られる、大宰府へ左遷される途上の菅原道真と、彼に敬意を示す在地の人々とを描いた絵と類似している。以上のことから、義経蝦夷渡伝説が、他の画題を種として定型化されたことがうかがえる。さらに、三つ目のグループに属する作品群は、この図が定型化したのち、数々のバリエーションを生み出した様相を提示している。歌川吉宗（2 代）画の《蝦夷の信仰》は、アイヌと義経を画面左右に配置する定型の位置関係を、手前と奥という位置関係に変更することで、劇的な効果を与え、アイヌの祈りのポーズを合掌のポーズに変更し、和風化したアイヌ風俗を表現していると見え、新味のある義経蝦夷渡伝説図をつくっている。また、松前藩の御用絵師を務めた今村三峰筆《義経入夷之図》（小樽市正法寺所蔵）は、描かれる義経主従やアイヌの人数、差し出される宝物の数が多く、一つ一つが複雑な形と派手な色で表現されている。

義経蝦夷渡伝説図は、従来から指摘されている「蝦夷征伐」に限らず、疱瘡除けの祈願など、必ずしもアイヌと和人の関わりに直接結びつかない祈願が込められていた。さらには、特定の意味を込めるよりも、目を喜ばせる画面を生み出すことを目的に、描かれるようになっていったことがうかがえる。

以上のことから、義経蝦夷渡伝説図は、北海道における絵画制作の様相、その変遷を明らかにする手がかりとなる絵画群であるうえに、ある画題がいかにつくられ、いかに変遷してきたかという、美術史研究に寄与する事例であると考える。

本研究期間内においては、北海道での調査が主となり、江戸で出版された錦絵や読本の挿絵の図像の分析、比較は、充分に取り組めていない。江戸の出版物にみられる義経蝦夷渡伝説図を明らかにし、北海道で定型化した図との比較を行うことが、今後の課題である。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

１、<u>春木晶子</u>「義経蝦夷渡伝説図をめぐって」『北海道開拓記念館研究紀要』第 43 号（北海道開拓記念館、89-110 頁、2015）、査読無

２、春木晶子「市立函館博物館所蔵〈アイヌ風俗絵馬〉について」『市立函館博物館研究紀要』第 25 号（市立函館博物館、22-27 頁、2015)、査読無

３、山際晶子「研究大会要旨　義経蝦夷渡伝説を描いた絵画について」『北海道史研究協議会会報』第 93 号、(北海道史研究協議会、22 頁、2013)、査読無

４、山際晶子「余市町教育委員会所蔵の《アイヌ絵（武者のぼり下絵)》について－「島の為朝」図との関係」－」『北海道開拓記念館研究紀要』第 41 号、(北海道開拓記念館、247-256 頁、2013)、査読無

〔学会発表〕（計 0 件）

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）
○取得状況（計 0 件）

〔その他〕
ホームページ等
６．研究組織
(1)研究代表者
山際晶子（YAMAGIWA SHOKO）
北海道開拓記念館・学芸部・学芸員
研究者番号：50591864

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし